

社会技術研究開発について

平成30年5月



Japan Science and Technology Agency

科学技術振興機構（JST）のご紹介

年間総予算額 1,010億円

研究開発予算 約776億円

1. 未来を共創する 研究開発戦略の立案・提言

様々なステークホルダーとの共創を推進し、エビデンスに基づいた先見性のある戦略を立案・提言

- 研究開発戦略センター
- 中国総合研究交流センター
- 低炭素社会戦略センター

2. 知の創造と経済・社会的価値への転換

ネットワーク型研究所として主体的に研究開発を推進

戦略的基礎研究

イノベーション型研究

企業化開発

- 戦略的創造研究推進事業 (CREST・さきがけ・ERATO・ALCA・RISTEX) 等

【成果事例】



iPS細胞



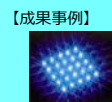
鉄系高温超伝導物質

- 未来社会創造事業 等



【成果事例】
インドネシアにおける
地震火山の総合防災策

- 研究成果展開事業 等



青色LED



IGZO薄膜
トランジスター

国際共創・知的財産活動の支援・情報基盤の強化

3. 未来共創の推進と 未来を創る人材の育成

様々なステークホルダーによる対話・協働



- 日本科学未来館
- サイエンスアゴラ
- 科学とつながるポータルサイト 等



次世代人材の育成



- スーパーサイエンスハイスクール支援
- 国際科学技術コンテスト支援 等



イノベーションの創出に資する人材の育成



- プログラム・マネージャーの育成・活躍推進プログラム
- 研究人材キャリア情報活用支援 等

科学技術イノベーション創出

社会技術研究開発について

社会技術とは

- 自然科学と人文・社会科学の複数領域の知見を統合して新たな社会システムを構築していくための技術*
- 社会を直接の対象とし、社会において現在存在しあるいは将来起きることが予想される問題の解決を目指す技術

※「社会技術の研究開発の進め方について」（平成12年12月）より

JST社会技術研究開発センター(RISTEX)の取組・アプローチ



①問題解決型

- 関与者（ステークホルダー）との密接なコミュニケーション
- 現場主義（関与者との協働）
- P D C Aサイクルの徹底
- 人文・社会科学と自然科学との連携
- 社会への実装を強く意識

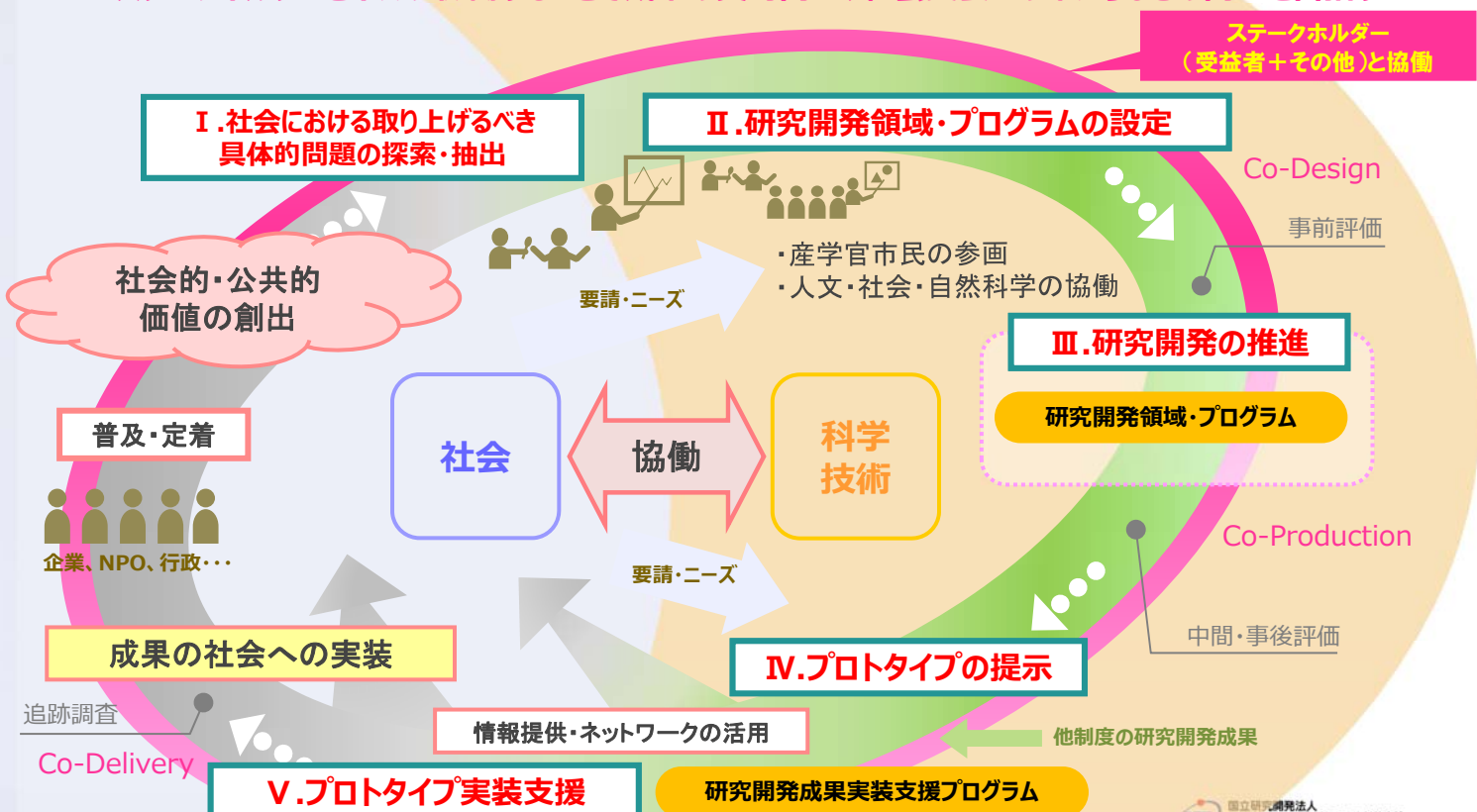
②技術の社会化型

- 政策担当者等関与者へオプションを提示、そのための場や機能の構築
- 実装に向けた活動を推進

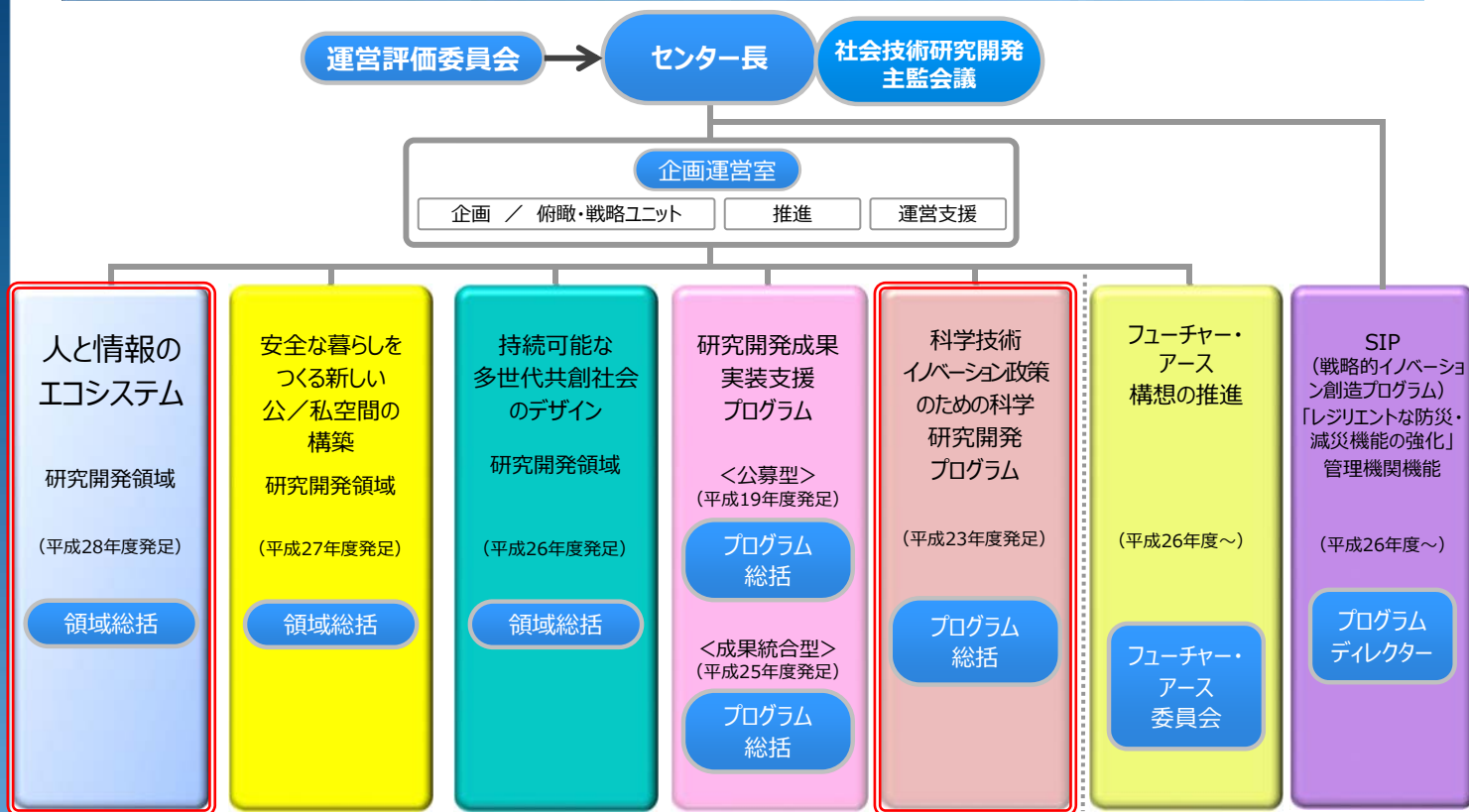
社会技術研究開発センターの重視する研究開発

社会実装を意識した問題解決型研究開発の推進

ステークホルダーと早期に協働することで成果の質的向上、社会実装への確からしさの向上を目指す

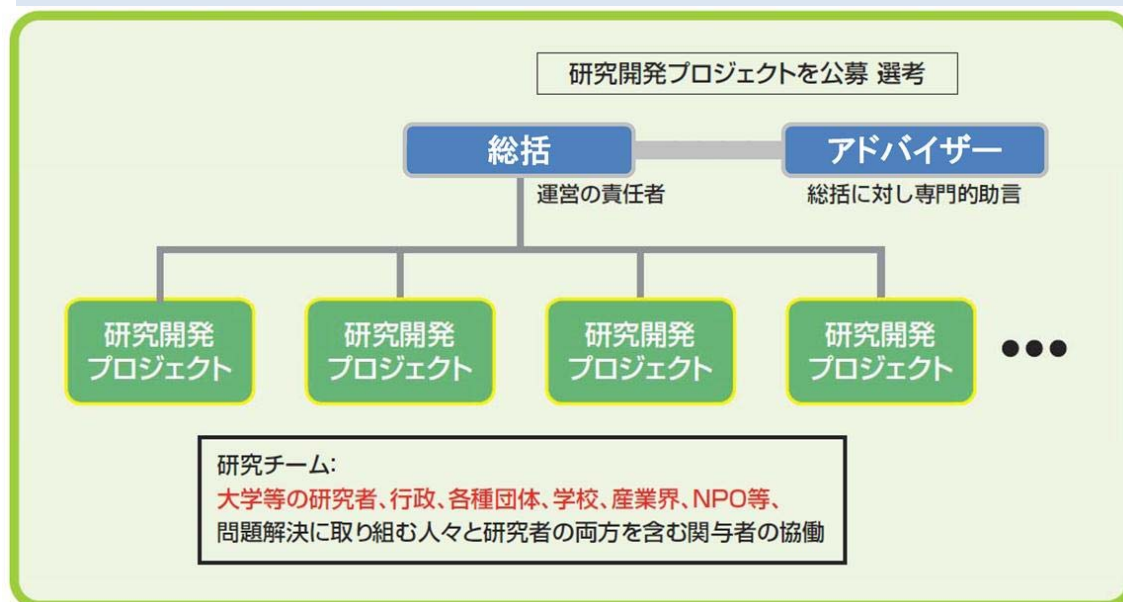


社会技術研究開発センター運営体制



研究開発領域・プログラムの運営体制

～領域の目的達成に向けて、領域総括のマネジメントのもと研究開発を推進～



- 研究開発プロジェクト（課題）の募集・選考、領域会議、サイトビジット（現地視察）、領域全体会議（研究開発実施者を含む合宿）等の実施
- 必要に応じ、研究開発プロジェクトの計画変更、統廃合も実施
- アウトリーチ活動、外部関与者との人的ネットワークの構築